

C 3 過疎地域における児童の教育・福祉・保健に対する協同体制の確立を目的とし
に基礎研究(秋田調査第10報) 行事参加からみた子どもの生活と集団
大妻女大家政 平井信義・干羽喜代子・長坂陽雄・大場幸夫・松本寿昭・川邊恵子

<目的> 現在の子供の生活は、環境喪失とも言えるような状況にあり、子供の社会性の発達において重要な意味を持つ子供集団の形成困難が指摘されている。本報告は「児童の生活構造の時代的変遷」に着目した研究活動の中で、子供の参加する行事を分析し、地域社会における子供の生活と位置づけを明らかにした上で、社会化を中心とした人格形成の場としての子供集団を考へ、現在そこに起する機能の変化や形成困難といった状況を把握しつつ、現代における子供集団再形成・発展の為の大人の働きかけの方向を明確にする。

<方法> 56年3月～8月の間に対象地の秋田県下町に滞在・生活し、祭典を中心とした地域行事や各種の子供行事に参加観察をした。一方、地域住民へのインタビューを試みるというフィールドワークを行った。なお、その補助として質問紙調査を併用した。

<結果> 昔の子供は農耕生活に基づく村落共同体機構に根ざした独自の生活をもちながら、自治的な子供集団活動とその生活や行事において展開し、そこで村落規範や社会性を自然に体得していた。が、戦後の社会変動はそのような地域社会の生活様式を一変させた。行事は地域の生活から遊離形式化すると共に、子供の生活や集団活動への大人の介入傾向が強まり、「子供社会の過疎化」という状況下で管理化されがちになり子供の生活の姿が認められた。

以上の事から子供の健全な成育の為には、子供主体の活動を中心とした多様な子供集団の再成を、地域の大人が一体となり進めなくてはならない。その為には、まず大人が地域の現状を正しく把握し、活動の奥実践を通して、子供の生活環境の再建に努める必要性があると思われる。地域連帯性復活の重要性が確認された。